
意味不明(笑)

スーちゃん

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

意味不明（笑）

【Zコード】

Z2942F

【作者名】

スーちゃん

【あらすじ】

私の覚えている限りの事を適当に書いただけ（笑）

(前書き)

意味不明な小説です（笑）読まない方がいいと思います。

私は中学3年生
今は受験生として
頑張つて居る . . .
遊んでるけど（笑）

私の経験して来た事。
覚えている事をすべて
書きたいと思います。

0才 4月24日

私が産まれた
元気にして
問題がない。

みんなそう思いたかったと思つ。

私は泣いてはいたが！！

顔にへそのをが巻きついていた。
手や口や鼻が黒っぽくなつっていた。

未熟児だったのもあり。

みんな心配したらしい。

産まれてちょっとしたある日、私に病氣がある事が発覚した。

病名は

「腎臓病」腎臓はとても大切なもので1人に2つあり、一つあれば
以上はないらしい。

詳しく述べて（笑）

私は

「一つあればいいなら、悪い方を無くせばいいやん」
そんな軽い気持ちで思っていた。

そして私は聞いてしまった・・・

【慢性腎炎】

急激な症状はあらわれないが、経過が長引いて治りにくい病気の性質・状態。好ましくない状態が長く続く」と

【腎炎】

腎臓の炎症性疾患

親はどう思つたのかな・・・まあとにかく治らない。

私にはまだ病気があった。

アレルギー。

すごい大変だつたらしい。

タンパク質はダメ。

親も困つただらうね。

1才

私は病気を背負つてゐるもの、スクスクと育つた。

私はすゞい近くでテレビを見ていたらしい。

そのせいで！！

「斜視」になつた。

【斜視】

眼筋の異常などにより、他方の目が異なる方向を向いていた。

左目が内側に向いていたのが発覚した。

2・3才

この歳の時は、入退院を繰り返していた。

3才の時、目の手術をした。
手術は成功した。

手術後の生活は大変だった。

毎日何個もの目薬をささなければならぬし。
病院食は苦手だし。

見事に退院

4才

私は保育園に入園した
しかし！毎日熱を出し、家に帰るばかりしていた。

ある日、二つもの「」と熱で家に帰った。

私はソファーで横になつていて。

母親が声をかけた。

母 「アイス食べるやない？」

私 「うん」

母 「なら待つててな」

私 「うん」

母親は冷蔵庫にアイスをとりに行き、持つてきた。

母 「アイス持つてきただ」

私 「・・・」

母

「寝たんかーー？」

私
「・・・」

たつた数秒で寝れるはずがないと思い、母親は不思議に私の顔を覗きこんだ。

母親はアイスを落とし、すぐに救急車を呼んだ。

私は、顔が真っ青になつて、白眼向いて息をしてなかつたそつだ。

私は救急車で病院へと

見事に入院（笑）

私は覚えてないが、一つだけ覚えている事がある。

夜中に犬を連れて、父親と姉が見舞いにきてくれたこと（笑）
犬はダメでしょ（笑）

まあ大したことじやなかつたらしいから、すぐに退院できた

私は運動制限があつた。腎臓病のせいです。
だから皆と外で遊べなかつた。

私は泣いた。

皆と同じことが出来なかつたからだらうね。

5・6才

母親と父親は離婚した。

私はハツキリ覚えている。離婚する時の事件を。あえて書かない（笑）

私に幼なじみが出来た

6才 4月
ピカピカの1年生。
学校は楽しい
彼氏も出来た。

私の姉が荒れ始める（笑）

7才
2年生は楽しくて仕方がなかった。学校生活で一番楽しくて仕方が
なかつた。

姉がレイプされる。
私はレイプした奴が捕まつてない事に腹がたつた。

姉は1人で居るのがダメになつた。

姉が事件を起こす。

そして . . .

姉は施設に入れさされる事になる。

家出をした姉を警察が捕まえ、そのまま施設に連れて行った。

私は姉が捕まつた瞬間を見た。

すぐ暴れていた。

ちょっと姉が怖いと思った。

そのまま車で施設へ向かった。

私達は、警察の車の後ろを走っていた。

私は車の中で泣いた。

「 私
なんで施設入れるん? 」

母

「 施設入れるんはお姉ちゃんのためなんやで。将来真面目に生活で
きるよ」

「 私
・・・ 」

私達は施設に着き。

エレベーターに乗つた。

姉は暴れていた。

「おい！ババアこんなところに入れるんか。子供を見捨てるんか」

母 「・・・」

姉は愚痴をずっと吐いていた。

母親は何も言ひ返さないで、平然とした顔をしていた。

私はまた泣いてしまった。

そして・施設へ入った。

3年生

姉の面会を行ったびに、姉は元気で楽しくやっていた。

ちょっと羨ましかった（笑）

3ヶ月後、姉は帰ってきた。

最初は真面目だった。

けど、また荒れ出す。

次は、鑑別所に入る。

施設より厳しい。

鑑別所は家から遠いから、あまり会えなかつた。
たまに来る姉からの手紙が嬉しくてたまらなかつた。

姉が鑑別所で倒れたと連絡があり、姉は入院した。

母親は姉に付きつきりだつた。

私は家で1人で暮らしていた。

姉は退院して。

そのまま家に帰れる事になつた。

しかし、また事件を起こして、鑑別所へ。

4年生

この歳は、うちも学校で荒れたり、夜帰つて来ないなどあつた。

私達は引っ越す事になつた。

母親は、

母

「あんたもお姉ちゃんみたいにならんよつにせで」

そう言われた。

姉が荒れ始めたのもこの歳だったらしい。

学校でみんなが、お別れ会をしてくれた。

私のために、みんな一生懸命出し物を決めたりしてくれた。

私は嬉しかった。

幼なじみは泣いてくれた。

私は、

「男は泣くな！..」

幼

「絶対遊びに来いよ」

私

私

「男は泣くな！..」

「わかつてゐよ。チャリで来れる距離やしな（笑）また泊まりに来るから、よろしくな。」

幼

「チャリで来れんかよ（笑）それ先に言えよ、チビ」

私

「チビ・・・。次会う時はぬかしたるわ。」

幼

「はいはい。チビはこつまでもチビ」

そんな会話をした（笑）

私はチビです（笑）

5年生

私は新しい学校で楽しくしている・・・

やつ言いたかつた・・・

けど、それは違つた。

私はイジメにあつた。

あまり覚えてないけど！

男子から何かを言われてただけだと思つ。

学校に行かなくなつた。

自分の病気の事を気にし始めた。

何でこんなんで産まれてきたんやろ。
何でこんなになつたんやろ。

私は毎日泣いた。

6年生

友達に無理矢理学校に連れて行かされた。

その友達のお陰で、6年生は楽しくて仕方がなかつた。
引っ越してから初めて、本当に好きな人が出来た。
仲良くなり、毎日のように一緒に居た。

告白をした。

結果はダメだつた（笑）

仲の良い友達ぢゃアカン？

そう言われた。

中学1年生 4月

私は中学生になった。

クラスの人にもすぐに馴染めた

私の誕生日の前4月23日に、好きな人とメールをしていました。
告白を断られたけど（泣）まだ好きだった。

そして彼は言った。

彼
「明日誕生日なん！？」

私
「せやで なんで！？」

彼
「明日一緒に帰ろか！？」

私は嬉しくてたまらなかつた

彼はすごいモテ男だつた。

カッコイイ人つて事

性格は、ドジやけど優しい時は優しい

私
「ホンマにいいん！？噂広まつたらどうすん！？」

彼
「いいよ 噂はまつとけばいいやん。しかも、お前との噂流れるの
慣れたり」

私と彼は噂をよく流れていた。

それは彼のせいだ。

私は彼の誕生日の日に、キーホルダーをあげた。
そのキーホルダーを携帯に付けて、みんなに自慢していたらしい。

私は男子から聞いた時、ちょっと嬉しかった

私は
「あははっ せやな。なら一緒に帰るな」
彼
「部活終わったら門でな」

私
「わかつたあ」

今日は嬉しくて寝れそうにないと思つた(笑)

学校はいつも通り楽しく終わった。

部活も終わり、一緒に帰った

「・・・」

無言

会話があまりないまま、バイバイをした。

その後、メールが来てる。

彼
「バーカ（笑）」

私
「バカやし（笑）今日はありがとう（^_^）ノす、い嬉しかった（^_^）いい思い出になつたよ 一生忘れへんわ（笑）」

彼
「うん（*、*、*）」

私の誕生日はいい思い出の日になつた。

6月

私は彼と遊んでいた。

付き合つてないけど(泣)
私は彼の携帯が気になつた。

私

「携帯見せてやべ(^ ^)ノ」

彼

「いいよ(^ - ^)／」

・・・() !

あつたりOK
・・

まあ見れるからいいか(笑)

メールを見た。

・・・()

彼女らしき人発見

私

「彼女居る？」

彼
「なんで！？」

私
「このメールとか見てわかったから。」

彼
「居るんちゃう」

泣きそうになつた。

そして、事件が起きた。

私の住んで居る所には、七夕の日に大きな祭りがある。

その祭りを、私と彼が2人で行くとゆう噂が流れた

それは彼の彼女から聞いた。

すごい攻められた

私

「行く訳ないやん。」

彼女

「ならなんで噂流れるん??彼氏も否定しいひんし」

私 「うちも今知つたから。彼氏が否定しいひんなんか知らんから。そいつに聞き」

彼女 「わかつた 「ごめんなあ。」

私 「うん」

解決した （笑）

そして、そのカップルは別れた

7月

友達とメールで喧嘩した。
ちょっと省略する（笑）

友

「明日喧嘩な」

私 「喧嘩（笑）怠慢の事?（笑）」

友
「そうや。」

私
「わかつたあ
」

次の日

数学が始まるので数学教室に向かった。

私は座っていた。

そしたら…！

友
「ちよつと来いや
」

私
「学校終わってからこしてや
」

友
「いいから来い
」

私
「いやー
」

私は椅子から突き落とされた。

そして上に乗られて、殴られ続けた。

相手は学校1の女デブだったから、上に乗られた私は身動きがとれなかつた。

先生に止められた。

なぜか相手は泣いていた。

「こっちが泣きたいわ（笑）」

ただけ先生に呼ばれて事情を全部話した。

まあ謝つてもらつて、解決した。

その後、相手はイジメに合つようになつた。

9月

私は学校に行くのが楽しくなくなつた。

不登校になつた。

ずっと遊んでいた。

2月

また学校に行くよつになつた。

みんなに声をかけられ、ちょっとしたアイドル的になつた。（笑）

先輩も休み時間には、うちに会いにわざわざクラスに来たぐらいだ。

2年生

また行かなくなつた。

学校の思い出がない。

あるとしたら、宿泊合宿に行つた事ぐらいだ。

家が無くなる。

普通の家では考えられないよね。

私達家族は別々に暮らした。

母親はおばあちゃん家。

姉は友達の家。

私は姉の彼氏の家。

3月間離れて暮らした。

2月

私はサイトをしていた。ある男の人からメールが来た。

ちょっとメールした後、

男
「付き合つて下さる」

私
「・・・えつ・・・本気?」

男
「うん」

私はありえないと思つた。

2年間も好きな人が居るし「片思いだけど（泣）」

私は適当に

私
「いいよ とメールしてるの楽しいし」

男
「ホンマケ! ? ありがとう」

それからの毎日は幸せだった

その男に夢中になつた。

電話もした

別れた！！

二股をかけていた。

それからはずつと引きずつっていた。

彼の友達に出会った。

その友達は、私の気持ちをとても分かってくれた。

友達

「よしーーーまた付き合えるよ!!」俺が協力したるわ

私は嬉しかった。

3年生 4月

私はある人に出会った。その彼は私の元彼の友達。

メールをし始めた

相談にも乗つてもらつていた

ちょっととずつお互いの事がわかつていった。

そして、その彼が、

彼

「付き合ってくれへん？」

「…………冗談は止めてや（笑）」

彼
「本気やから……」

私
「ごめん」

彼
「わかった」

それからの彼はアタックして來た。

そして、私の誕生日の日に付き合つた。

彼はすごいいい人だつた。

しかし、一週間で終わつた。

10月

最近私は体が弱つて來るのがわかる。

私には今、大切な大切な彼氏が居る

すごいい人

私のすべてを受け止めてくれた 多分（笑）

毎日喧嘩ばかり（泣）

けど、すぐに仲直りしてイチャイチャする（笑）

遠恋だけど、楽しい

将来の旦那さん（笑）

私は今を大切に生きている。

後悔した事、辛い事、いっぱいあつたけど。

今を生きていれるだけ、まだよね。

(後書き)

読んでくれてありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2942f/>

意味不明(笑)

2010年10月28日04時25分発行